

---

# 北海道浮魚ニュース

令和 5(2023)年度 15 号

2023 年 9 月 15 日

道総研 釧路水産試験場

[http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo\\_news.html](http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html)

---

## ◎道東太平洋 9 月浮魚類分布調査結果

表面水温が高くマイワシの分布量は少ない  
マイワシは 13cm 台および 15cm 台  
カタクチは 12cm 台が主体

試験調査船北辰丸(釧路水産試験場所属)によって行われた 9 月浮魚類分布調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 2023 年 9 月 2~8 日
- ・ 調査方法 : 流し網を用いた漁獲調査 (原則 17 時投網, 翌 5 時揚網)  
計量魚群探知機による魚探反応の計測  
CTD, XCTD による海洋観測  
NEAR-GOOS\*表面水温 (9 月上旬) の解析  
※NEAR-GOOS 地域リアルタイムデータベース  
[http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rtrtdb/data\\_usage\\_J.html](http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rtrtdb/data_usage_J.html)
- ・ 調査海域 : 道東太平洋海域

### 1. 水温分布

2023 年 9 月の道東太平洋海域は, 全体的に表面水温が 20℃を超えており, 過去 4 年間で最も高い状態でした (図 1)。

### 2. 計量魚探調査

大樹沖から襟裳沖 (St. 1, St. 5 付近) にかけて比較的大きな反応がみられましたが, 平均魚探反応量 ( $m^2/nmi^2$ ) は 223 で, 2022 年, 2021 年および 2020 年調査時の平均魚探反応量 (415, 692 および 684) と比べて減少しました (図 1)。

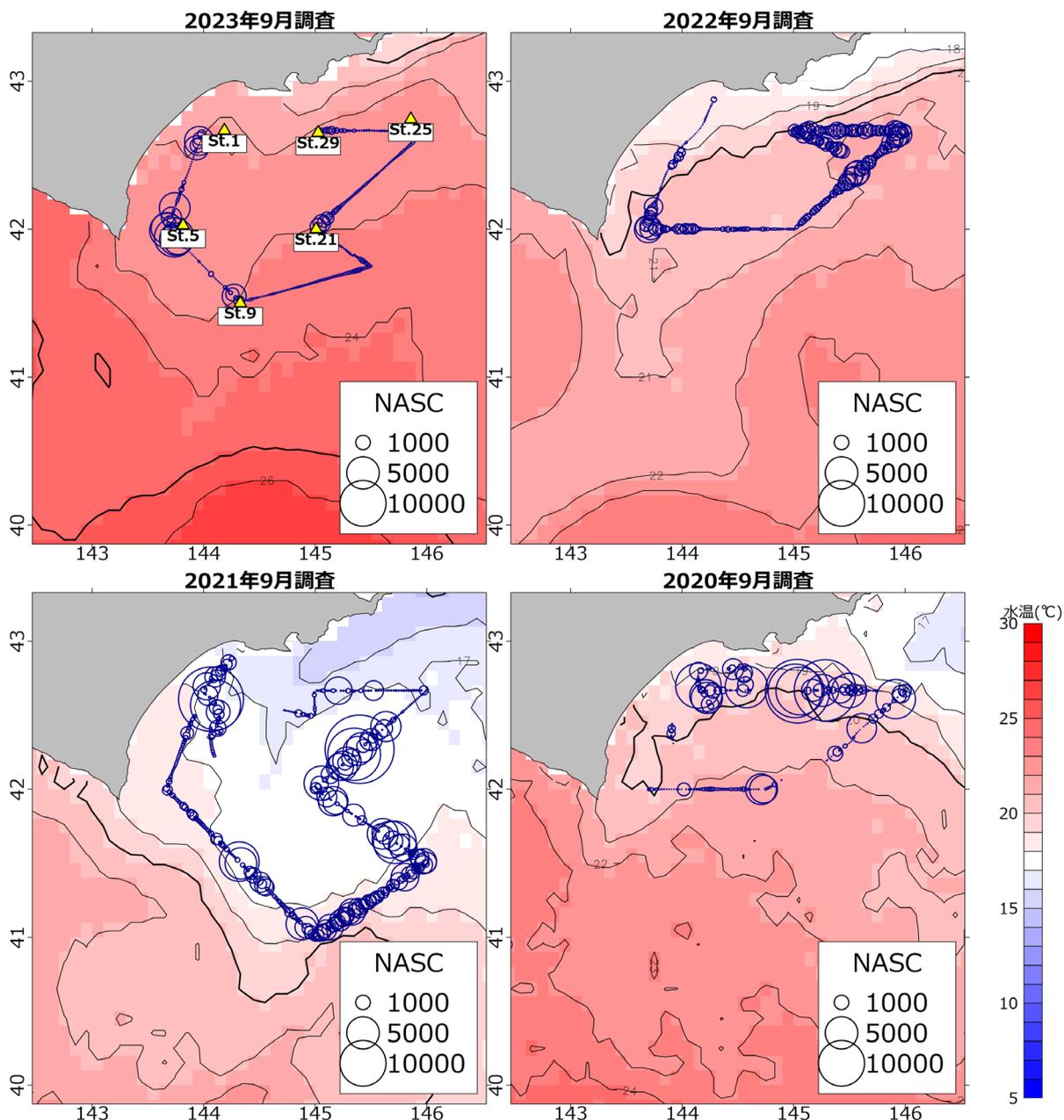


図1 計量魚群探知機の魚探反応量と表面水温および2023年9月調査における漁獲調査点（左上図：2023年9月調査，右上図：2022年9月調査，左下図：2021年9月調査，右下図：2020年9月調査）

（表面水温：NEAR-GOOS 表面水温旬平均値，NASC：1平方マイルあたりの魚探反応量）

### 3. 流し網調査

調査期間中，流し網による漁獲調査を6点で実施し，サバ類が466尾，マイワシが628尾，カタクチイワシが1,132尾，サンマが8尾漁獲されました（表1，図2）。まとまった漁獲があったのは西側の3調査点（St.1，St.5，St.9）で，サバ類とマイワシはSt.1で，カタクチイワシはSt.5でそれぞれ最も多く漁獲されました。

漁獲されたマイワシは体長13cm台および15cm台を中心で，カタクチイワシは体長12cm台が中心でした（図3）。サバ類は体長20cm未満の個体がほとんどを占めてお

り, 2022 年調査時に主体となっていた 20cm 以上の個体の割合は大きく低下しました。

1 操業あたりの平均漁獲尾数はサバ類が 77.6 尾, マイワシが 104.7 尾, カタクチイワシが 188.7 尾でした (図 4)。2022 年調査の平均漁獲尾数と比べて, カタクチイワシは増加し, サバ類とマイワシは減少しました。

表 1 各調査点の位置, 投網日, 水温および魚種別漁獲尾数  
2023年度9月浮魚類分布調査(流し網)

調査点 番号	投網日	漁獲位置		水温 (°C)			CPUE (1操業あたり漁獲尾数)			
		北緯	東経	0m	50m	100m	サバ類	マイワシ	カタクチ	サンマ
5	9/2	42-02	143-49	20.9	9.1	5.9	37.5	89.5	569.5	0.0
9	9/3	41-30	144-20	22.9	4.9	3.9	189.8	15.0	196.5	0.0
21	9/4	42-00	145-01	24.5	6.8	2.8	2.5	0.0	2.5	0.0
25	9/5	42-45	145-52	24.4	3.8	2.2	1.5	0.0	7.0	0.0
29	9/6	42-39	145-02	22.6	3.2	2.6	4.5	1.0	10.0	7.5
1	9/7	42-40	144-11	18.9	14.2	7.3	230.0	522.8	346.8	0.5

※漁獲尾数は 2019 年以前の反数に換算した値

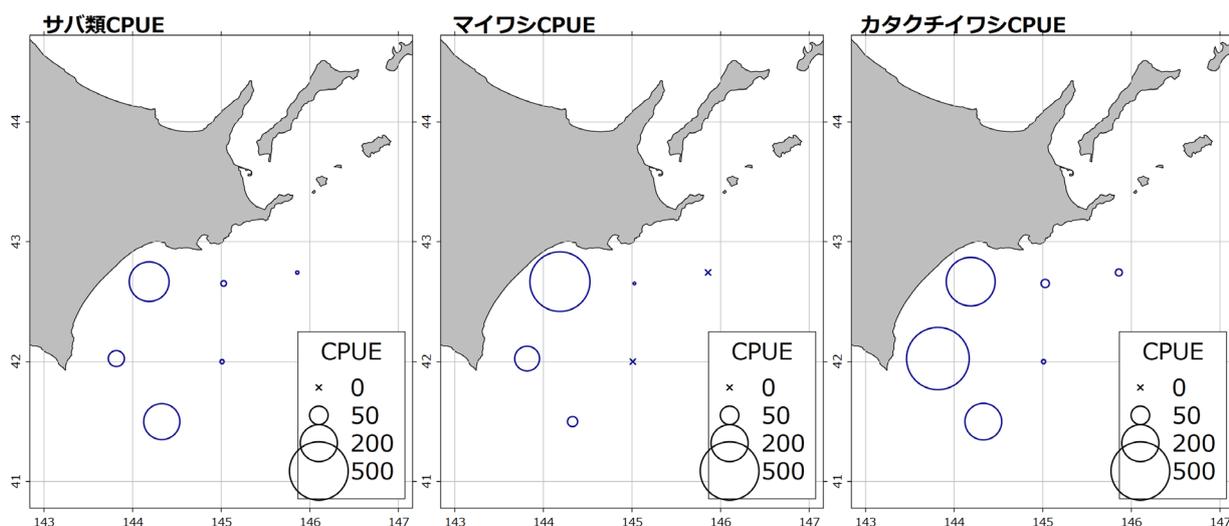


図 2 各魚種の調査点別 CPUE

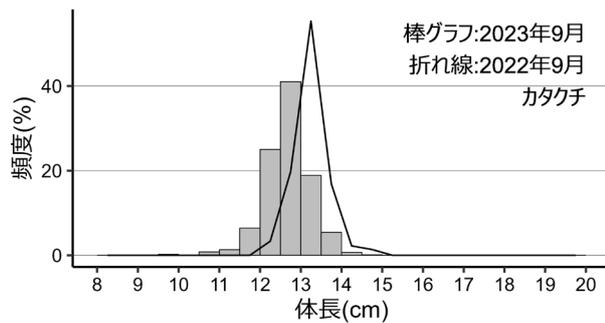
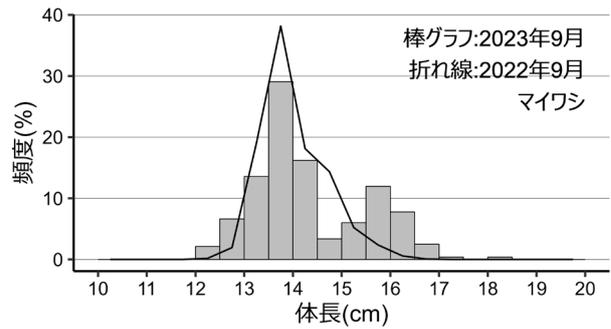
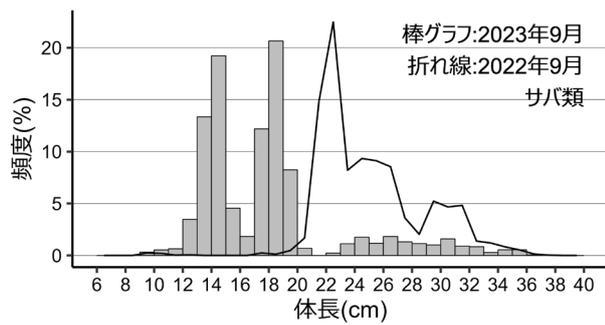


図3 2023年および2022年9月調査で漁獲された浮魚類の体長組成。  
(左上図：サバ類, 右上図：マイワシ, 左下図：カタクチイワシ)

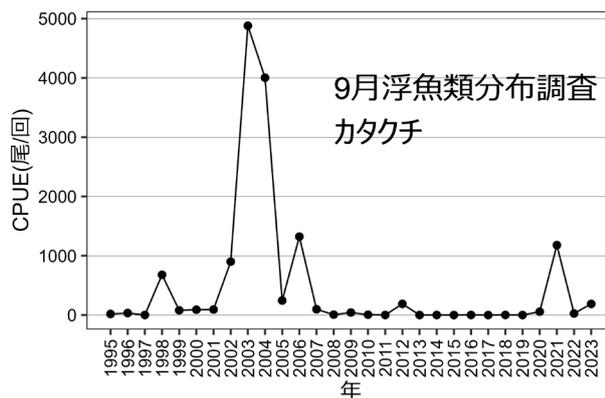
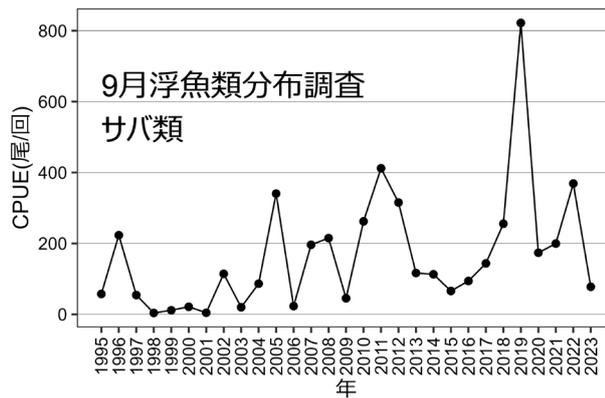


図4 9月調査による平均CPUEの推移 (CPUE：1操業あたり漁獲尾数)

#### 4. 浮魚類の分布について

今回の漁獲調査では、マイワシとサバ類のCPUEが前年と比べて大きく落ち込みました。計量魚群探知機の反応量も過去の調査と比べて減少したことから、調査海域全体にわたって浮魚類の分布量が少なかったと考えられます。

一般に、マイワシやサバ類は、カタクチイワシと比べて低水温を好むとされていま

す。調査海域は全体的に表面水温が高く、マイワシやサバ類の生息には適していなかったと考えられました。両種はより水温の低い海域（沿岸に近い海域や、親潮の勢力が強い海域など）を中心に分布していた可能性があります。

**流し網調査の詳細：**9種類の日合の流し網を用いた漁獲試験（付表）。原則 17 時投網、翌 5 時揚網。2020 年度から各日合の反数を変更しました。過去の調査結果との比較のため CPUE（1 操業あたり漁獲尾数）は 2019 年度以前の反数（182 mm を除く）に換算した値を用いました。

付表 9 月浮魚調査における流し網の日合別反数

日合 mm	22	25	29	37	48	55	63	72	82	182
2020年～	2	2	4	2	2	2	2	4	4	0
～2019年	1	1	4	4	2	1	1	1	2	12

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

北辰丸 海洋観測速報（試験運用中） <https://hro-fish.net/hokushin/>  
（釧路水産試験場試験調査船北辰丸の海洋観測結果がご覧になれます。）

お問い合わせ先：釧路水産試験場調査研究部、[TEL:0154-23-6222](tel:0154-23-6222)  
[FAX:0154-23-6225](tel:0154-23-6225)